



NPO法人災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

NPO 法人災害救助犬ネットワークのコンセプト

災害が起これば、いまの組織・体制で機能し得るか、役に立つ対応ができるのか、それぞれのボランティアが自問自答の中、地域、能力、組織的にも災害に対応できる体制づくりを願って新しい組織づくりについて2007年夏から47名で議論をはじめました。課題は山積しています。

しかし、災害現場で有機的に機能するネットワーク化を目指し協力して乗り越える意思を確認し、実務的な個々の課題にはさらに広く意見を聞きながら、根気よく進めていくことにしています。新しい組織の基本コンセプトは、次の通り概要に確認しました。(2007.7.16 富山市 設立準備会にて)

- 1、実働できる組織であること
- 2、訓練会・認定審査会の広域実施
- 3、組織・個人間に拘らず交流、連携、協力を進める
- 4、災害救助犬の空白地帯をなくするための広報活動
- 5、地域間の連携、行政との対応業務
- 6、情報の一元化と共有など地域だけでは行えない事業を行う

実働を考えた場合、ある地域だけで活動していても、その地域が被災地となれば機能しなくなり、隣接地域のつながり、人とのつながりなど日常的な交流、情報交換がなくては、いつどこで起こるかわからない災害には役に立てないことは過去からの教訓です。

現実に議論し終わった翌日に新潟中越沖地震が発生し、未組織でありましたが有志で新潟に向かいました。そこで教えられたものは、情報収集の能力と分析力、統率力、判断力、決断力のあるリーダーの必要性、サポーターの重要性、そして救助隊との連携、資材等々、災害救助犬の搜索能力とは次元の異なる、組織力、ハンドラー・サポーターの能力を問われることばかりでした。

2011年東日本大震災では、その教訓が生かされ、災害救助犬以外にも補強しチームとして機能するようになってきました。しかし、被害面積に対して対応能力は非力でした。

そして2014広島土砂災害では11の組織が災害救助犬チームとして一体で活動に従事することができ、災害本部からの信頼も得られ協同することの必要性を実感できましたが、いつでも体制が組めるようにしなければなりません。私たち災害救助犬組織自身が問われています。

私たちは「救えるはずの命を救うために」をスローガンに掲げて活動し、結実して行くには、すべての枠を越えて、知恵を出し合い、協力し合い行動することでしか実現できないように思えます。

これは災害救助犬のボランティアが共有している課題であると捉え、その数多くの課題には、開かれた前向きな議論、行動の中で解決して行かなければならないと考えています。

私たちは、その方向性を責任をもって具現化するために、NPO法人として組織しています。

NPO法人は社会の理解がなければ成り立たないことを真摯に考えるべきと思っています。

わが国では欧米に比べて行方不明者を搜索する手段としての災害救助犬は社会的認知度が低く、普及が不十分で、災害時・平時を問わず、救える命を救う体制が整っていません。このような現状において、私たちは自分たちで犬を育て訓練しながら搜索に応援参加するのみでなく、将来に亘って出来るだけ多くの人命を救助するために、災害救助犬がいない空白地域での育成支援、実働可能な災害救助犬の認定審査会の実施、行政との協力体制の整備など、災害救助犬に関する基盤整備でも全国的な広域組織として役割、必要性を感じています。

地域に犬が揃えば、通常の事態には地域で対応できるが、大災害など事態によっては、組織間、地域間で相互に協同するというのが私たちのネットワーク構想です。まだ基盤整備の段階ですが、NPO法人としての責任、設立の志を忘れず、社会とともに活動、発展して行くためにも、防災関係、一般市民の方々に広く認知していただかなければなりません。災害救助犬そのものの認知を得ることも重視し、今後はあらゆる機会を通じて理解を深めて行く努力、活動をしていくつもりです。

現状では、地域組織としてのNPO法人、少数の訓練グループ、1人だけのところもあり、それぞれ事情が違って、「救えるはずの命を救うために」協同し、災害救助犬に関する多様な課題に対し、相互の信頼、寛容な精神で協力しあい社会貢献を果しあるものにしたいと考えています。